

江 工 会 会 報

発行所
江 工 会

島根県江津市江津町1477
島根県立江津工業高校内
電話 (代) 0855-52-2120
郵便番号 〒 695-0011

「どっしりする江工会」

会長 土井 正 人
(工業化学科 昭和三十三年卒業)



江津地域における県立高校在り方に関して、十月九日に県総合教育審議会は、江津高校と江津工業高校の統合が適当と答申しました。基本的な方針として、普通科、工業科共に一学年二学級六〇人とし一二〇人定員で募集し、令和十年頃を目途に新設校として開校する。キャンパスは現江津工業高校の地が適当としています。

現在江津市における中学生は、ここ十年くらいは大きく変わっていきなく一五〇人くらいを維持していますが、今後は大きく減少していきます。(令和四年度に生まれたのは九七人で一〇〇人を割っています)その半数は市内外の県立高校と私立高校に進学し、残り四〜五割が両校にともに二〇人〜三〇人程です。二校

の定員数には程遠く、ここ何年も定員割となっており市外からの入学生も年々減少し、それぞれの市町村共に危機感を持って市外に行かないように支援をしております厳しい状況です。新設校として開校に当たり相当に頑張らないと将来の展望は望めません。さて本題として、それでは今後の卒業生会はどうなるのか? 校名が残ればそのまま継続もあるかもしれませんがそこは少々難しいのではと思われまます。いずれにしても新設校としての開校となれば一応その段階で一区切りとなり三年後には新設校第一期卒業生が誕生します。そうした中で現江工会の在り方をどうするのか、会計処理を含めて皆様のご意見を伺いたいと思います。まだ五年以上先のことですのでその間じっくりと議

論が必要と思っております。

昨年十二月七日の山陰中央新報の報によりますと江津の統合高校については、パブリックコメントを終了し(意見公募には二〇人、六四件の意見が寄せられたとあります)

その結果、一定の理解を得たと受け止めて、一学年一二〇人四学級にする計画案の年内決定を目指しているという事あり会報発行の頃には決着がついていると思われまます。いずれにしても新設校の誕生に向けて全力で取り組んでいかなくてはならないと思われまます。卒業生の皆様の絶大なるご支援をお願い致します。それでは本年も皆様にとってご健勝あれとお祈りいたします。

「現況報告」

校長 小 嶺 和 隆



江工会会員の皆様には、新春にあたり、心よりお慶び申し上げます。平素から母校の教育活動に格別のご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

現在、本校では継続して地域の多くの企業や団体、学校と協働活動を行っております。

す。一例として「萩・石見空港開港三十周年記念品の制作(萩・石見空港)」「ハロウィンナイトでのアクリル切符・ランタン・イルミネーションの制作(しまね海洋館アクアス)」などがあります。他にも、波子駅や江津駅、江津本町、都野津地域でのイベントの協働・ボランティア参加を行い、様々な活動が報道メディア等で取り上げられました。継続中の「マイクロ水力発電機の開発(第一稀元素化学工業(株) 広島工業大学)」などもあり、機会を増すごとに、地域の方々から本校生徒の活躍が注目され、応援していただいているところではあります。

進路状況は、就職者の割合が八十八%と大幅に増えました。県内の他の工業高校が五割〜六割であるのに比べ、突出しています。さらにそのうちの県内就職率は八十一%でこちらも増加しました。本校の目標とする地元就職率の向上に向けた地域連携の成果の一端かと存じます。

さて、昨年六月、島根県から本校に関係する突然の発表がありました。六月定例県議会の丸山知事施政方針の、江津地域の県立高校の在り方の検討を始めていくという発言です。その後、学校関係者説明会や地域説明会が開催さ

れ、八月には島根県総合教育審議会へ諮問、四回の審議を経て、十月十九日に答申が提出されました。答申では、本校と江津高校との統合が示され、その後のパブリックコメントの募集に際しては、多くの皆様からご意見が寄せられたことと存じます。

次の令和六年度には本校は創立九十周年という節目の年を迎えるところであり、同時に、将来に向けた大きな岐路に立たされているところでもあります。江工会の皆様には、周年行事や将来の本校の在り方に向けた温かいご支援やご協力をお願いする次第です。

終わりに、皆様方のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



江津駅のイルミネーション設置

「江工高と江津高の合併が示されて」

副会長・浜田支部
(建築科 昭和四十六年卒業)
岡 本 正 友



地元をはじめ全国の江津工業高校同窓生の皆様には新春を健やかに迎えられ心よりお慶びを申し上げます。コロナの五類の移行から制限が緩和され経済社会や市民生活も徐々に普段に戻りつつあります。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、昨年に母校の存続問題について、生徒の激減による江工高と江津高の五年後の合併が示されました。施設は諸設備等の関係から、我が江工高に設置されます。

これまで関係者の皆様とともに、生徒の確保に様々な方策で対処しましたが、回復に至らず残念に思っているとこ

ろです。これからは、江津高校の関係者の方々と協議をして、ともに社会が求める人材育成の拠点の新しい学校の姿を模索しながら進めていかなければと決意を新たにしています。同窓会会員や後援会会員皆様には今後ますますのご理解

とご協力そして温かいご支援を頂きますようよろしくお願い申し上げます。ところで支部活動について報告をします。

七月二十九日に昨年と同様に鈴蘭別館で、新人を加え総勢三十五人が参集して総会・懇親会を開催しました。年輪を重ね立ち姿は変われど心は錦、青春は真只中の各々方でした。

最後に、我が母校と浜田支部の益々の発展を祈念して、応援歌と校歌を声高らかに歌いあげた楽しいひと時でした。



「母校の統廃合について」

副会長 福田 稔
(工業化学科 昭和五十三年卒業)



令和六年辰年、あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年五月に新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられ、ようやく以前の生活を取り戻してきたように感じる中で迎えた新年は、我が母校である江津工業高校が創立九十周年を迎える記念すべき年でございます。

さて、そのような中、県総合教育審議会が江津高校と江津工業高校の統廃合を適当とする答申案をまとめ動き出したことは、皆様すでにご承知の通りです。新設校は江津工業高校に設置、二〇二八年前後には県内初の普通科と工業科の統合高校が誕生することになります。

ところで、江津市の人口推移を見てみると、二〇二〇年以降の出生数が毎年一〇〇人程度となっており、二〇〇〇年頃と比較すると約半分に減少しているという実態があります。江津工業高校、江津高

校、どちらの学生や卒業生もそれぞれが母校を愛し誇りを持っていきますので、統廃合についてはなかなか簡単に賛成しがたい問題もあるかと思いますが、少子化が進む中で地域の子どもの教育環境を維持するためには、これが最善の方法であると理解しなければならぬと考えます。

統廃合により江津工業高校の名前は変わることになります。「地域産業を担うテクノロジストの育成」のスクールミッションのもとに育った優秀な学生が活躍していくことはこれからも変わりません。

新設校が県内外の中学生から進学先として選んでもらえる魅力ある高校となるにはどうすればよいのかを学校や地域と共に考え、又、夢に向かって頑張る生徒たちの応援団としての使命をしっかりと果たしていきたいと思えます。

辰年は陽の気が動いて万物が振動するので活力旺盛になって大きく成長する年だといわれているそうです。私たちもそれにあやかり、新しいスタートに向けて明るく準備をしていきたいものです。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き素晴らしい年になりますようお祈りいたします。

「県立高校の統合について」

副会長 藤 田 厚

(電気科 昭和四十三年卒業)



令和六年明けましておめでとございます。昨年は

義兄が年末に亡くなり新年のご挨拶を控えさせて頂き、失礼致しました。本年もよろしくお願い致します。

コロナも五類に移行し経済活動も回復傾向に戻りつつあります。今、世界では混乱な

時を迎えています。ウクライナ戦争も終焉も見えない状況、また、イスラエルではパレスチナ問題（ハマス壊滅）など、いたるところで問題が激化しており、一発触発の状態が続いていると考えてもい

いのではないのでしょうか？ 国内に目を向けて見ますと、詐欺問題を始め凶悪犯罪

が多く発生し気を許せない状況にあります。さて、卒業生の皆様もご存

じの事と思います。本校に目を向けると数年前からの県立高校の再編の問題であります。定数減少が進む島根県立の江津高校と江津工業高校の統合や廃校が現実味を帯びている状況で、昨年六月議会で丸山知事が方針の中で言及し

「望ましい教育環境を将来にわたり維持することが難しくなっていると判断し、在り方の検討を始めるとしました。両校は近年、生徒数の減少が顕著で江津高校の全校生徒数はかつて六〇〇人を超えたが現在は一八〇人、我が江津工業高校は八〇〇人を超えたが現在は一四一人まで落ち込んでいます。

二〇二三年度に入学の入試でいずれも定員八〇人の両校に対して集まったのは江津高校六六人、江津工業高校四五人です。

今、県では、今後十年で県西部の生徒数は緩やかに減少すると推定し、令和十年度を統合の目途に、現在、県教育

委員会をはじめ関係機関でパブリックコメントから出た意見をとり入れながら、県立高校の魅力化ビジョンを策定し統合に向けての動きが始まっています。どうか卒業生の皆様、母校を守るため高校の魅力化・生徒数確保など、あり

とあらゆる知恵・アイデアのご協力を母校にお寄せいただくようお願いいたします、お互いに頑張りましょう。



江工会支部だより

関東支部

「関東支部の歴史と現況・母校の統合計画」

支部長 千代延 勝彦

(建築科 昭和四十九年卒業)



新年を迎え各地でご活躍の会員の皆様におかれま

は穏やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

世界中を震撼させた新型コロナウイルス感染症防止の観点から、三年間行動が制限され在宅勤務・WEB会議等働き方や生活環境も大きく変化した期間でした。この間、支部活動も休止状態でした。昨年四月、三年ぶりに総会・懇親会を開

催することが出来、諸先輩方のお元氣なお顔を拝見出来楽しい時間を過ごすことが出来ました。総会で会員の方々に

ご承認を得まして新支部長を拝命致しました。また今年は母校の『創立九十周年』の記念すべき年です。ご関係者様

には支部会員一同心からお祝い申し上げます。小生が卒業して五十年となります。

さて、支部の歴史ですが関東支部HPにも掲載されてお

りますが、ご紹介させて頂きます。昭和五十四年十一月に『関東地方支部会』として故橋本清春様を中心にして総会が開催されましたが、自然消滅しました。その後、平成

五年に昭和三十二年卒業の有志の方たちで支部活動の再生準備を開始され、翌年三月に幹事会の初会合が開か

りました。今年が三十年目です。私が六代目の支部長です。事務局のお手伝いを二十年間し

ております。毎年二百人前後の会員様に、総会案内状をお送りしているのですが、五十

歳から三十歳前後の出席が皆無状態です。昨年の総会はご来賓も含めて四十四名での開催でした。中間・若手層への

勧誘をいかに働きかけるか個人情報規制もあり苦慮しておりますこの様な状況下で支部

存続が危ぶまれてきておりますので、江工会会員の関東地区へ移動・転勤等の情報がお

わかりでしたら役員へご連絡ください。又、何か良い施策があればご享受ください。お待ちしています。母校は平成三十年四月より二学科制となり建築・電気科と機械・ロボ

トット科の二科で生徒総数は百三十三名の状況です。昭和四十六年頃は生徒総数は約九百名でした。昨年六月、島根県知事より五年後（令和十年）には江津市内にある二つの県立高の統合計画が発表

されました。突然の発表で驚いております。今までわかっている範囲で経過報告を致します。平成二十八年度に総合教育審議会で『二〇二〇年代

の県立高校の将来像について』が立上げられ、平成三十年二月の間、合計十七回の会合が行われました。その間、

浜田・江津市両市で統合計画に対する意見陳述（陳述者、各四名）及び市長・議長連名での要望書が提出されましたが、その対応策等の具体的な発表はありませんでした。詳細は島根県教育委員会のHP

に記載されていますので見て下さい。今回、令和五年度開始の「江津地域の今後の県立高校の在り方について」で四

回の会議（第二回目で公聴会・江工会土井会長出席）が開催され、答申書が令和五年十月に島根県教育庁へ提出されました。一般者からの「パブリックコメント」募集が

十一月二十三日締切統合計画の詳細は令和五年度中に発表されるはずですが。

詳細は島根県教育委員会のHPを見てください。



母校創立は鳥根県より、石見地区に工業学校が必要との強力な方針で昭和九年四月に開校しました。卒業生が約一万三千名で、特に石見地方の産業界で大勢の方々が活躍されています。前身は鳥根県立江津高等実業女学校で、明治三十五年創立です。様、母校を守るため高校の魅力化・生徒数確保など、ありとあらゆる知恵・アイデアのご協力を母校にお寄せいただきよう願っています。お互いに頑張りましょう。

関西支部

「ウエルカム大阪」

支部長 中上 清之
(建築科 昭和五十一年卒業)



新年おめでとうございます。どうぞいませ。

江工会会員

の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年、橋本支部長より関西支部長のバトンを渡され、伝統ある江工会を承継するためにはと、謹んでお受け致しました。

関西支部におきましては、会員数の減少や高齢化等々が進む中、昨年六月には三年ぶりに総会・懇親会を開催する

ことができました。例年、本部及び関東支部より来賓をお迎えしておりましたが、昨年は約三十名強の支部会員のみの開催とさせていただきます。また、歌のゲストとしてOBの山崎ていじさん(建築科 昭和五十一年卒)もお招きできず、少し寂しい総会を予想しておりましたが、カラオケやビンゴゲームなど会員の皆様のご協力によって、大変盛り上がり、予想を大きく裏切って、すばらしい会となりました。

そして十一月三十日には、新旧役員十六名で忘年会も開くことができ、新しい役員として、機械科 四十五年卒の三明さんと機械科 四十七年卒の入江さんの二名も加わって、先輩・後輩関係なく、楽しく賑やかな笑い声いっぱい

の忘年会となりました。二〇二五年には関西万博が開催される予定です。全国からまた世界中からの来場者で関西は大変にぎわいます。

全国の卒業生の皆様！万博へ行かれる際には、ついでに大阪で一緒に飲みませんか？同総会をしませんか？関西支部はいつでも、どんなでもウエルカムです。

二〇二五年大阪でお会いしましょう！



山口県支部

「江工会の発展を祈願」

支部長 大屋 節雄
(工業化学科 昭和三十八年卒業)



皆様、明けましてお目出度うございます。

令和二年度から続いております新型コロナウイルスが、やつと五類に移行し住んでる地区の各種イベントも再開となりました。

江工会山口県支部も高齢化が進み、元気な人も少なくなり年明けには役員を集めて今後の運営について相談等しようと思っております。

私の地域・岩国では、この夏から秋にかけてイベントが再開し、大変忙しい日々となりましたが、久しぶりの明るい行事に地域の皆さん、生き生きとされておりました。

一方私達同年代で体調不良になる人もおり、健康のありがたさを身に染みて感じております。新聞では江津工業高校と、江津高校の統合ニュースが話題になっておりますが、山口県でも隣の柳井・周南地域で県立高校 再編で五校を二校にする統合のニュースが出されており、反対する団体で活発な意見交換が行われている最中です。

最後に江工会本部の益々のご発展、並びに江工会関係者のご健康とご多幸を祈願して筆をおきます。

江津支部

「高校時代をふりかえって」

畑 中 秀幸
(電気科 昭和四十九年卒業)



早いもので昭和四十九年三月に卒業して、本年で五十年を迎えようとしています。

一学年四科(建築・機械・電気・化学)の計七クラスで

二百八十人余り、全学年で八百人以上の生徒がいたものです。

今は、すっかり木造校舎はなくなっていますが、当時電気科だけは二年生まで木造校舎で学んでおりました。

他の科は、二年生から四階建ての鉄筋コンクリート校舎に移り、電気科は三年生でやっと移ることができました。

また、この高校三年間片道約七キロの道のりを自転車で通学したものです。

この間、高校生活での思い出は色々ありますが、まずは三泊四日の四国一周修学旅行や秋の四科対抗の運動会です。

運動会といえば、鉄管で組んだ応援席があり、その中に大きなデコを設置し、まわりに孟宗竹や大漁旗、杉の葉などをかざりつけた姿は勇壮でとてもみごとなものでした。

そして、十八才を迎える三年生になると工業高校ということもあり、就職していく生徒も少なくはなく車の普通運転免許取得のため自動車学校へ通ったものです。現在、自動車学校の跡地は順天堂やキヌヤとなっています。

この時代の大きな出来事としては、高校二年の夏に大水害がありました。それは七月中旬頃から一週間位降り続

いた長雨により江の川が氾濫し沿線の住宅が浸水するなど甚大な被害を受けました。同時に私が住んでいる二宮地区でも裏山が崩壊し家がおしつぶされるなど大変な被災がありました。

こうして、色々な思い出や出来事がありました。現在は、江津市役所を退職後、令和五年度からスクールサポータースタッフとして江津中学校に勤務しながら、地域の活動として、昨年の夏頃から民生

委員を務めさせていただくことになり、少子化や高齢化が進む中、特に高齢層では、一人住まいの方も少なくなく孤

独死にいたるケースも現実おきています。そうした状況の中、民生委員の任務は極めて重要であると認識しております。ですから、今後も地域のため横のつながりをだいじにしながら精一杯頑張っていく決意でございます。

江津支部

「江津市近況報告」

浜 浦 重 実

(電気科 昭和五十四年卒業)



日ごとに寒さが身にしみる頃となりました。まいりました

が、江工会の皆様におかれましては、ますますの御健勝のことと存じます。コロナという疫病も五類扱いとなりまして、インフルエンザが感染拡大をしている状況で日々御心痛と御苦勞をされて御手数数の掛かる事と思えます。

現在私は、江津市内の電気工事会社で継続雇用として従事しております。又、学校運営協議会・部活動の外部指導もお手伝いさせて頂いており

ます。未だに校長先生と諸先生方にお世話になっている次第です。市内の近況としては、人口減少の慢性化に伴う、

財源不足、人手の不足により官庁・民間共厳しい状況に加え、市内の公立・私立高校の新入生減少が著しく、先生方に置かれましても中学校は元

より、小学校へも学校紹介として、数年前から継続されている出前授業など、苦勞の連続で有ります。更に先生方の働き方改革も重なってきてお

ります。そのような中で江津工業と江津高校との統合計画が発表され五年後を目途に進める事となり、地元説明会が開催され、関係者の意見・要望の聞き取りがなされてお

ります。それぞれの母校関係者は、特色・伝統・将来性をどのように残せば良いか。変えなければならぬものは何か。

アピールするものは何か。学校運営協議会などでも会合をかさねており現在進行形であります。コロナ感染拡大による影響も未だに残る地方で環境の激変が到来しております。今後ますます江工会の皆様方をはじめ関係者による御教示、お力添えが必要となつてきております。社会情勢・経済情勢も踏まえながら最善と思われる案を模索していかなければなりません。

最後になりますが、これから更に寒さが厳しさを増してきます。皆様方には、くれぐれもお体を御自愛ください。

江津市役所支部

「卒業の思い出と雑感」

支部長 梅 木 茂 雄
(工業化学科 平成二年卒業)



新年、あけましておめでとうございます。時代の波

は容赦ないよう、江津市役所支部もとうとう私のような平成卒業者が支部長と言う大役を仰せつかるようになってしまいました。若輩ですがよろしくご指導ください。

私が卒業した当時はバブル景気が始まったところで、大手企業にほとんど同級生の内定

が決まっていく独特の高揚感があったと覚えています。そんな中四年制大学に進学した私は、二年生の時にバブル崩壊に直撃されました。大学でも当然大事件で、親の会社が立ち行かなくなり退学した者や、卒業後の就職先が無いため戦略的留年を選ぶ者も出る始末でした。

私も院進学に失敗して就職先もない中、敗戦の兵よろしく当てもなく江津へ帰ってきましたが江津でも全く仕事が無く、半年くらいは毎日海を眺めて暮らしていました。

現在の就職支援を見てみると、人材不足が叫ばれるなか行政や企業も高校生に注目し、セミナーや説明会など、貴重な人材を地域に残したい思いで手厚く多様な支援をしている状況に時代の流れを感じています。

さて、昨年は新型コロナウイルスも五類に移行し、江津市のイベントも軒並みコロナ前の状態にまで復活しております。この調子で景気も順調に回復していけば良いのですが、物価高騰が依然として続いている中、市内各事業者もなかなか価格転嫁、賃金上昇、消費喚起という景気の勝ちパターンに結び付かないようで苦しい状況が続いていると認識しています。私は現在商工観光課

に在籍し、商工振興を担当している関係上、物価高騰・エネルギーコスト削減対策事業の実施などを通じて、特に中小企業の声をよく頂きますが「お客さんに申し訳ないから値段を上げられないわ」という声を聞くと、三十年間据え置きされた賃金の中で、受け切れないほどのサービス残業をしながら潰れていった一昔前のサラリーマン像と重なってしまい、悲しくなっています。

貴重な人材なら当然高価であるべきだとみんなが気付いているのに、一向に上がらない人件費。実にモヤモヤとした日々を送っております。

益田支部

「令和五年度総会を終えて」

支部長 安 田 徳 太
(建築科 昭和四十一年卒業)



令和五年度の支部総会を七月七日に岩田先生をお迎えし、一三名の出席の元行われました。平素お付き合いのない人をはじめ、初めての出会いもあり岩田先生より江津高校との統廃合問題の流れの説明もあり、和やかな中に進

められました。出席者全員で近況報告をし、各々の事業の様子、子どもや孫のことまで話す人など様々で、和やかな笑いに包まれる二時間余りの会合でした。今のところ、支部活動も総会の集まりのみの活動を改め、季節ごとに何か都合をつけて集まり、より親善を深めていかなければと思ひ知らされました。

年を重ねるごとに人の繋がり希薄さや、虚しさ、若い人達との年代のギャップや、今まで所属していた会社の職定年、自分の会社の代表交代など会員の皆様も高断を迎え、体の変化や今までになこと事への対応までまるで違った自分を変えていかないといけないことに直面しているような感じがうかがい取れました。これは私だけではなような気がします。

人生の転換期というのでしょうか。七五歳を境に自身その後何年生きるのか？という方向を中心に考えなくてはいけないのではないかと思っています。私自身、「人生八五歳」と思っている人間にとっては後九年、何が自分にできるのか？と考えさせられていきます。そんな事を考えなくても普通に暮らしていけば何もないのに、と思う人

も大勢いると思います。今、ささやかながら「生きてきた自分」をまとめ本に書いてみようと思っています。本を息子、娘の三人の孫たちに私が亡くなった時に渡し読んでもらうようにしようと思に決めています。自分が生きてきた証明に産まれたときからの自分自身の本心に偽りのない自分の心を書いてみようと思ひます。本当は伝えたくないこともたくさんあるので書き始めにじぶんのルーツ探しから始めてみたところ、そこからつまづき進みません。書いて残したいことは山ほどある予定でしたが文章にする難しさに苦労しております。でも来年中にまとめるつもりでいます。どんなものになるかいささか不安ですが自分の心からのまず反省と、子どもや孫に人間としての生き方が示せたらいいと思ひます。

今、新たな事業に挑戦しております。養豚場の建設で活路を見い出せればと思ひ、今一生懸命取り組んでいます。日本に絶対足りない農業に取り組み第二、第三農場と建設していき建設業以外にも将来の展望を広げることが夢見ています。自分で始めた建設業でしたが、広島、東京事務所を持ちました人口減をはじめととして若い人の建設離

れ、高度社会の建設の大型化、色々な事が重なり田舎では建設に夢見ることが少なくなりなりました。

私が創業したとき七五社の建設業協会は今は三〇社にまで少なくなりました。五五社あつた建設専門業者は一五社にまで少なくなり、本心に夢を持ってなくなつたのも現実のことです。せつかくやり始めた事業活動です。若い人に夢を持ってもらうべく他業種に手を出した次第です。建設業のみならず、複合的に事業を考えなければいけない時代が

来たのではないでしょう。養豚に先駆けてブランド豚の販売のお店の第一号店を広島に八月に先行してオープンしました。二号店を東京で求め、できれば全国販売に夢見ております。

私に残されたあとわずかの時間を、めいっばい使い、少しでも後に続く人に役立つべく頑張りたい思ひでいっばいでございます。皆様にとりましてもしも新しい年が希望に溢れるすばらしい年でありますように心より御祈念申し上げます。

◆事務局だより◆

令和五年 一月〜十二月

◇会報五十七号発行

二月八日(水)

県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現教職員、在校生、同窓会等に配布。

◇新卒者入会式

二月二十八日(火)

江工会入会式(令和四年度卒業生五十一名)
土井正人(昭和三十九年工業化学卒)江工会会長より式辞をいただきました。

◇江工会理事会・総会

五月十三日(土)

会館吾妻において理事会・総会を行いました。令和四年

度事業・決算報告、会則の改定、五年度事業・予算審議、開校九十周年記念名簿の発行スケジュールを確認しました。また、四年ぶりに懇親会を行いました。親交を深めることができました。

◇関東支部総会

四月九日(日)

如水会館において小笠原方正(昭和五十一年建築卒)支部長をはじめ、三十六名の出席によって三年ぶりに開催されました。

総会では、千代延勝彦(昭和四十六年建築卒)新支部長

が選出され、令和四年度の活動や決算報告、五年度の活動計画や予算についての審議と新役員の紹介が行われました。

懇親会では、アトラクションとして、山崎ていじ（山崎楨次・昭和五十一年建築卒）オンラインで、大いに盛り上がりました。

本部より小嶺和隆校長、岩田泰典事務局長の二名が出席しました。

◇関西支部総会

中上清之（昭和五十一年建築卒）支部長をはじめ、三十名の出席によって三年ぶりに開催され、懇親会ではカラオケやビンゴゲームなどで、大いに盛り上がりました。

◇益田支部総会

七月七日（金）ちるちるみちる駅前店において安田徳太（昭和四十一年建築卒）支部長をはじめ、十三名の出席によって開催され、支部の運営と会費等について、熱心な意見交換を行いました。また、懇親会は和気あいあいとした雰囲気での交流を深めました。

◇浜田支部総会

七月二十九日（出）鈴蘭別館において岡本正友（昭和四十六年建築卒）支部長をはじめ、三十五名の出席によって開催され、令和四年度の活動や決算報告、五年度

の活動計画や予算についての審議が行われました。

懇親会では、今年度初参加の若手会員の紹介、会員の皆様が持ち寄った品々を賞品としたビンゴ大会が実施され、大いに盛り上がりました。最後に、応援歌、校歌を歌い、大いに盛り上がりました。

本部より小嶺和隆校長、岩田泰典事務局長の二名が出席しました。

◇卒業生の活躍

恵木 勇 也

（総合電気科 平成十六年卒業）

石見神楽面師

「御面屋恵木舞工房」

<https://www.menknowkai.com/>

この度、石見神楽面師として、東京・銀座にて、出展・参加いたします。応援よろしくお願いたします。

企画展 面の界

神楽面が表現するかたち

日程：令和六年二月三日

（土）二月十二日（月・祝）

十一時～十九時

※二月六日（火）のみ休廊

会場：ギャラリー桜の木

（東京都中央区銀座五丁目三

階 一～二番館ビルディング

三階 TEL:03-35573133

入場料：無料

※二月四日（日）

有料トークイベントあり

□内容：日本の民俗芸能「神楽」面の展示・販売、出展神楽面師との交流イベント



計 報

謹んでお悔やみ申し上げます。

旧職員

村田 豊

窯業科

昭和二十五～二十八年

金田 健 男（江津市）

工業化学

昭和四十四～五十一年

機械

昭和五十二～五十五年

昭和六十二～平成十七年

池町 信 治

機械・ロボット

平成二十四～令和三年度

会 員

齋藤 猪一郎

（昭和二十八年 建築）

中尾 且 宏

（昭和五十三年 電気）

谷口 泰 紀

（昭和四十四年 電気）

安東 三郎

（昭和二十年 木材工業）

高本 得 男

（昭和五十年 電気）

川上 武 文

（昭和三十四年 建築）

山本 幸 次

（昭和三十四年 機械）

石橋 英 規

（昭和三十五年木材工業）

浜野 健 一

（昭和四十二年 工化）

山本 義 典

（昭和四十三年 機械）

西川 光 明

（昭和四十三年 機械）

松井 龍 夫

（昭和四十五年 工化）

藤井 浩 二

（昭和四十五年 電気）

嘉戸 利 春

（昭和四十六年 工化）

徳田 清 美

（昭和四十六年 電気）

森口 祐 二

（昭和六十一年 機械）

大谷 隆

（平成五年 建築）

斉藤 寛（関東支部）

（昭和三十九年 電気）

佐々木 忠 之（益田支部）

（昭和三十九年 電気）

吉川 秀 一（関東支部）

（昭和四十九年 建築）

※事務局で把握できた方のみ掲載しております。

編 集 後 記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。お蔭さまで第五十八号を発行することができました。

一ページの写真は、江津市内の保育園と協働して江津駅にクリスマスツリーのイルミネーションを設置している建築電気科の生徒たちです。地元を活性化するために色々と探求しながら活動し、情報を発信しています。母校のイン스타그램やFacebookのQRコードを記載しておきますので、ぜひご覧ください。なお、今後とも会報に対しましてご意見、情報等（同窓会報告、会員消息等）がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。

（事務局 高月）



フェイスブック



Instagram

令和 4 年度 江工会一般会計 決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	1,219,435	0	1,219,435	1,219,435	0	令和 3 年度繰越金
2 会費 (入会金・終身会費)	550,800	0	550,800	540,901	9,899	R 4 年度卒業生 51 名分(入会金 1,800 円終身会費 9,000 円)過年 度卒業生分 利息 1 円
3 寄付金	10,000	0	10,000	30,000	△ 20,000	関東支部 20,000 円 関西支部 10,000 円
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	65	0	65	4,210	△ 4,145	名簿販売 1 冊 預金利息
収入合計	1,780,300	0	1,780,300	1,794,546	△ 14,246	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	150,000	0	150,000	139,700	10,300	会報 57 号 2,000 部発行
3 記念品費	40,000	0	40,000	30,600	9,400	卒業生への角筒
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営会費への助成
5 通信費	50,000	0	50,000	2,050	47,950	会報原稿依頼 名簿送付
6 旅費	300,000	0	300,000	0	300,000	
7 会議費	200,000	0	200,000	62,427	137,573	支部総会への支援 会議用お茶
8 慶弔費	30,000	0	30,000	14,083	15,917	生花弔電
9 雑費	30,000	0	30,000	0	30,000	
10 積立金	500,000	0	500,000	500,000	0	定期預金
11 予備費	320,300	0	320,300	0	320,300	
支出合計	1,780,300	0	1,780,300	908,860	871,440	

令和 5 年度 江工会一般会計 予算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	885,686		885,686	1,219,435	△ 333,749	令和 4 年度繰越金
2 会費・入会金	518,400		518,400	550,800	△ 32,400	令和 5 年度卒業生 48 名分 過年度卒業生分
3 寄付金	10,000		10,000	10,000	0	
4 繰入金	0		0	0	0	
5 雑収入	14		14	65	△ 51	預金利息
収入合計	1,414,100		1,414,100	1,780,300	△ 366,200	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000		10,000	10,000	0	県工業教育振興会への助成
2 会報発行費	170,000		170,000	150,000	20,000	会報 58 号 2,000 部発行
3 記念品費	50,000		50,000	40,000	10,000	卒業生への記念品
4 会館運営費助成	150,000		150,000	150,000	0	江工会館運営会費への助成
5 通信費	50,000		50,000	50,000	0	総会案内 会報発送
6 旅費	300,000		300,000	300,000	0	支部総会旅費
7 会議費	200,000		200,000	200,000	0	支部総会への支援
8 慶弔費	30,000		30,000	30,000	0	
9 雑費	30,000		30,000	30,000	0	
10 積立金	300,000		300,000	500,000	△ 200,000	定額貯金
11 予備費	124,100		124,100	320,300	△ 196,200	
支出合計	1,414,100		1,414,100	1,780,300	△ 366,200	